秋高同窓会だより

発行者
秋田県立
秋田高等学校同窓会

印刷所
秋田マイクロ写真
印刷株式会社

水戸一高から"姉妹校"申し込み

佐竹氏の縁で母校と提携望む

姉妹提携で懇談した知道会一行と本校関係者

交流計画じっくり検討

同窓会代表が来校し懇談

佐竹藩ゆかりの茨城県水戸一高と母校との交流する計画が進んでいる。水戸一高は明治十一年師範学校予備学科として創立、その後、茨城中学、水戸中学などと校名が変わり、戦後の二十三年、学制改革に伴い県立水戸第一高校として発足、県内きっての進学校として現在に至っている。六十三年四月一日現在の在籍生徒は千三百十六人。

創立百十周年を迎えたことし、同校同窓会(知道会)の記念事業の一つとして県外高校との"姉妹提携"があり、相手先に一番先に浮かんだのが、茨城から秋田に移封された佐竹氏の縁で本県だった。

たまたま役員の中で三十年ほど前に秋田工業で教べんをとった人がいて、この人を中心に提携先を検討した結果、秋田県で最も伝統がある進学校ということで本校が適当ということになり、十月十八日に山口清隆副会長ら七人が本校を訪れ、正式な申し込みとなった。

突如、プロポーズされた形の本校側は、塩田会長、小玉副会長、室田校長ら六人が出席して、水戸一高の一行と懇談会を開き、①佐竹氏について、双方が知りたいことを情報交換する ②日本海側、太平洋側と分かれ、それぞれ気候、文化が違う両県の文化を学び合う…などでは一致した。ただ同窓会だけの短期的な交流では意味が薄いとして、「提携するなら半永久的に相互交流が行えるよう、生徒同士が互いに行き来するなど将来のことも考慮すべきだ」などの意見も出て、今後、両校で計画をじっくり練ることになった。

小玉副会長が記念式に出席

創立110周年の水戸一高

小玉得太郎副会長が十月三十日の水戸一高百十周年記念式典に出席した。

先に同校同窓会(知道会)から姉妹提携の申し入れがあった後、知道会から正式招待されていた。

小玉氏によると、記念式典には同窓会員四百八十人が出席、「百十年の歩み」のビデオを放映。秋田高と提携の話が進んでいると報告されていた。記念講演は同校二十五年卒の警察庁長官。式典終了後の懇親会は会費六千円、秋田と縁がある会員も六、七人いて話がはずんだ、とのことだった。

水戸一高　創立110周年の進学校

JR常磐線水戸駅からほど近い国道51号線添いにあって、敷地面積は七万二千七百五十四平方㍍。「至誠一貫　堅忍力行」を校是とし、教育方針は「教養を高め知性をみがくとともに身体を鍛練し、個性の確立を図る。自主的精神に充ちた、心身ともに明朗健康な人間形成を期する」を打ち出している。現校長は大貫力氏。創立以来二万三千人余の卒業生を出し、学生野球の父といわれた故飛田穂州の母校である。六十二年度卒業生は四百二十五人(男三百二十一人、女百四人)。本年三月の大学合格者数は国公私立含め三百人。うち東大十二人(現役七人)北大九人(同二人)東北大四十二人(同二十三人)私学では早大五十人(同十七人)慶大三十六人(同十五人)で毎年、有名大学に数多く合格している進学校。スポーツ活動も盛んで夏の甲子園大会にも二回出場している。

同窓会は昭和二十六年、「水中会」として結成され、三十一年に「水中一高会」と改称、さらに五十四年十二月に現在の「知道会」と改称した。知道会の由来は「知　萬物に周くして、道天下を済ふ」から名付けたという。現会長は山本満男氏。

五十四年に創立百周年記念式典を行ったが、その記念事業として敷地内に研修施設「知道会館」を完成した。ことし十月三十日には百十周年記念事業を行ったが、主な記念事業として「在校生士気高揚資金」を設立などがある。

阿曽村氏がベトナム大使に

昭和二十九年卒、高校六期の阿曽村邦昭さん(五二)が、さる十一月二十五日の閣議決定で駐ベトナム大使に発令された。本校出身者の大(公)使はスペイン公使で戦後政界入りの故須磨弥吉郎氏、現在国連事務次長(国連大使)として活躍の明石康氏、阿曽村さんは三人目となる。

阿曽村さんは師走の二十六日、智子夫人と夫妻でハノイに赴任、中学三年生の長男一郎君は日本に残っての勉学となった。

赴任を前に阿曽村さんは、「ベトナムは一九九〇年のカンボジアからの撤兵を言言しており、インドシナ半島の平和が速やかに進むことを見守りたい。そうした事態を踏まえて日越関係も向上し経済交流も進むでしょう」と語っていた。

阿曽村邦昭氏

阿曽村さんは、東大農学部卒、三十五年に外務省入り、オランダ、ブラジル両大使館、香港領事館勤務のあとブリュッセルのEC代表部公使を経て六十一年三月から文部省出向、大臣官房審議官として活躍中だった。

秋田市楢山南中町十一四十の実家にはお母さんが独り住んだ。

63年県文化功労者に同窓会員

一関、中村の両氏

一関吉美氏

中村四郎氏

六十三年県文化功労者に本校同窓会会員の一関吉美(S14卒)中村四郎(S14卒)の両氏が選ばれた。

一関氏は大正十年七月九日生まれ、昭和二十五年創刊の「寒流」同人として参加、五十四年からは編集人として会員の指導と歌誌発行に尽力。県歌人懇談会を設立、六十一年からは代表理事となり、「さきがけ歌壇」選者、「叢園」編集同人など短歌文学中心に幅広く活躍、昭和四十年から十七年間、母校の教諭を務めた。六十二年秋田市文化章受賞。

中村氏は大正十一年二月十一日生まれ。三十七年間にわたり特殊教育の振興に取り組み、県内小、中学校への特殊学校の設置を前進させた。秋大教育学部教授、同学部付属養護学校初代校長。現在も県特殊教育学会長、県心身障害児就学審議会長を務め、五十二年に県教育功労者。

慶祝

(判明分・敬称略)

◎秋田市文化章
吹浦　忠橘氏(S10)

◎県文化功労者
一関　吉美氏(S14)
中村　四郎氏(S14)

◎勲三等旭日中綬章
穴沢　辰雄氏(S8)

◎勲四等旭日小綬章
金子　恭三氏(T12)

◎勲五等瑞宝章
奈良　修介氏(S7)

◎厚生大臣表彰
山谷　浩二氏(S20④)

◎文部大臣表彰
大槻　家静氏(S13)

◎厚生大臣表彰
若松　泰治氏(S12)

天上天下

かつて"学生野球の父"といわれた飛田穂州は、「選手を食い物にし、機械のように扱う企業家はきらい」と、生前、プロ野球を見なかったという。いささか前時代的ではあるが、茨城県人の県民性を表したものとして興味深く感じた▼茨城県には、"水戸の三ぽい"といわれる県民性がある。つまり「骨っぽい」「怒りっぽい」「理屈っぽい」だが、この三ぽいを形づくったのは、生産性の低い自然と水戸学精神といわれている▼水戸学は精神主義と一般では見られているが資料の収集などは科学的なのが特徴。これが水戸光圀や徳川斉昭によって堅持され、それを奉ずる人々の中から維新の先駆者を出した。その茨城県の水戸一高から姉妹提携を持ち込まれた。佐竹藩の縁があるとはいえ、唐突な話で正直なところ戸惑いがないわけではない▼しかし水戸一高は飛田穂州を生み、その穂州が二代目同窓会長を務めたと聞いてより身近に感じた。早稲田の安部磯雄の「知識は学問から、人格はスポーツから」の薫陶を受け、「人間を作る野球」を神髄とした飛田野球は、母校の文武両道精神と多分に共通していると思えるからである▼関東にありながら地勢に恵まれず、長年、財政的にも苦しんできた茨城県と経済の地盤沈下に悩む本県。維新の際は数多くの先駆者を出しながら、なぜか明治政府の中心から外された水戸藩と戊辰の役では、官軍になりながら、さほどうだつの上がらなかった佐竹藩…太平洋側と日本海側の違いこそあるが、秋田、茨城の間には相通ずる面も少なくないように思える▼折角舞い込んだプロポーズ、前向きに検討するのがスジである。未知の文化に接することにより、必らず新しい道も拓けてくるであろう。同窓会から現役まで幅広く交流する手段をまずは模索するべきである。

中村歯科医院
院長　中村　實(S8卒)
副院長　中村　勤(S35卒)
秋田市大町四丁目3－14
(大町四バス停前)
TEL0188(62)2210

昭8卒会員一同
事務局
藤本儀二郎(S8卒)
秋田市牛島東1－9－24
TEL0188(33)5069

秋田県立農業短期大学
学長
山口邦夫(S18卒)
秋田市泉一の坪一八ノ三

秋田酒販株式会社
常務取締役
廣島正男(S18卒)
秋田市楢山共和町二ノ一二

千葉歯科医院
千葉正人(S18卒)
秋田市千秋矢留町六ノ一二
電話(〇一八八)三三－四三八〇

小野勇本店
小野久雄(S18卒)
秋田市金足追分海老穴一八五
電話(〇一八八)七三－二一一四

一万人から返事、増刷へ

3月末に刊行　同窓会名簿編集大づめ

来年三月末の刊行をめざしている同窓会名簿の編集作業が大づめに入っている。廣島吉朗委員長以下十三人の名簿委員会は、例年の繁忙もものかは、原稿の手配、収集、整理、照合と圧倒的な物量の前に毎日、時間との闘いを強いられている。

会員名の確認には、①昭和40年以前の年次（明治、大正を除く）は、各年次代表者から原稿を提出してもらう。②昭和41年～昭和50年の年次は、百十周年記念名簿記載にもとづく。③昭和51年～昭和63年の年次は卒業生名簿により親元に照会する。①～③の作業で集まった名簿にもとづき二万八千人にのぼる会員総数のうち、物故者、住所不明者を除く約二万人に同窓会名簿確認予約カードを送った結果、約一万人から返事が返ってきた。

名簿委員会はこれを昨秋購入したコンピュータ、ソードM68MXにインプットしながら残る約半数の会員の照会、確認、校正を急いでおり、稿を重ねることすでに三回。しかし、何しろ膨大な数にのぼるため、印刷のタイムリミットとの関わりから名簿の虫くいはある程度避けられそうもない情勢だ。

当初四千部を見込んでいた印刷は、特に若い年次からの予約申し込み殺到に五千五百部に変更となり委員たちを感激させている。規模の大きい同窓四業者から見積りを取り、一社に選定のうえいよいよ、コンピュータのデータバンクを利用してつくる、全国でも珍しい同窓会名簿の印刷が大車輪に入る。

▲時間との闘いを強いられている名簿委員会

矢留ク、1点差で惜敗

京都へ遠征、鳥羽クと親善野球　懇親会でカラオケ合戦も

野球部OB会・矢留クラブは十月二十九日、京都に遠征、旧京都二中野球部OB会・鳥羽クラブと今年で四回目の親善野球試合を行った。追いつ追われつ緊迫した試合だったが、矢留クに球運なく9―8、逆転サヨナラ負けとなった。これで対戦成績は2―2。

この親善試合は大正四年の第一回全国中等学校優勝野球大会（現全国高校野球選手権大会）の決勝で対戦した秋田中と京都二中の縁を復活させようと、さる六十年から行われている。今年は京二中側の当番で行われ、矢留クからは和賀政男会長以下二十三人が京都に遠征した。

当日の京都は木枯らし第一号が吹き、最高気温一四度と平年より五・五度も低く、時々雨が降る悪天候だった。午後一時すぎ、会場となった京二中の後継校鳥羽高吹奏楽部のマーチに合わせた入場行進で開会式が始まった。

結果はつぎのとおり。

矢留ク	400	300	1	8
鳥羽ク	020	501	1X	9

（秋）竹内、工藤―神馬、小野一、（京）西川―谷村

▽二塁打＝本多、進藤、真崎（以上秋田）、加藤、池田、三原（以上京都）

試合後、京都ロイヤルホテルで懇親会＝写真＝。席上、京二中同窓会名誉会長の平沢興氏（元京都大学総長）が「地方に残っている心の文化を大切に」と説かれ、また親友だった秋田中同窓会員・故青柳安誠博士の思い出に触れられたのが印象的だった。

矢留ク側は夫人同伴が十四人もおり、四回目のことあって互いに顔見知り、再会に話もはずみ、カラオケ合戦も。

洋画家佐藤文雄氏囲み

三和会（T12卒）の集い

88・九月一日より十五日までギャラリー大村に於て、氏の近作を展示した「佐藤文雄個展」（秋田魁新報社主催）が開かれた。一昨年彼れの画壇に活躍した功績により、県文化功労章を受章した記念の個展であった。

彼れの米秋を機に、大正十二年卒の我々が九月三日午後四時からニューグランドホテル「きのくら」に集まり一夕を楽しく過ごした。何時もなら十二、三名も集まる同級会であるが、八十歳を遠に越した今は故障者もあり、彼れを加えて八名であった。

佐藤君の絵の話しや、安藤露明君の俳句談義、川口君の秋田の古い唄「土つき唄」の披露などあり、何時果てるとも知れない楽しい会合であった。

安藤露明君の俳句（文雄君の個展に寄せて）

個展開く八十路の君よ　日雷

▽出席者　金子恭三、佐藤文雄、安藤五郎、小西達四郎、石井乃武夫、佐藤達三郎、高橋長四郎、川口弥之助

（小西 記）

経済のつながりや郷土の先覚再認識

近畿支部総会

近畿支部総会は九月十四日午後五時から、大阪市大淀区豊崎三丁目の東洋ホテル＝写真＝で開かれた。同支部は大阪市内を中心に京都、神戸、奈良など周辺都市在住者含め会員は二百人を超える。会場の東洋ホテルは副支部長の小玉保次氏（S20年）の経営。ゲストには同じ関西地区在住の秋工、秋商、横手高の同窓会代表、それに本部からは、小玉得太郎副会長（S18年）、窪田弘校長（S26年）、信太聡一広報委員長（S7年）が出席した。

会は渡辺宏良幹事長（S20年）の司会で進められ、在阪生活四十二年という石黒次郎支部長（S6年）が「ことしは兵庫県で行われた高校総体で母校の軟式野球や剣道が大活躍してとても楽しかった。会員は広範囲に散在し、ふだんは連絡もとりにくいが、現役ががんばってくれると集まりやすく、これが同窓仲間のつながりを深めることになる」とあいさつ。次いで本部の小玉副会長が、同窓会の現状を報告したうえ秋田市制百周年、戊辰戦争から百二十年を来年に控えた県内情勢を述べた。

このあと最年長の石田伸雄氏（T14年）の音頭で乾杯、懇親会に入った。

話題を集めたのは、大阪と本県との経済的なつながり。三和銀行の創始者で戦前の政財界で重鎮をなした町田忠治の縁で関西経済界が秋田人の手で支えられた時代があったとの小玉副会長の話に、郷土の先覚の偉大さを再認識した人も多かった。

宴が深まると校歌、応援歌の斉唱となったが、校歌の音頭をとったのが、女性の一期生で日航スチュワーデスOG会関西支部世話人の豊田武子さん（S29年）と同36年卒の藤井敬子さん。二人の美声に引き連られたように会は一気に盛り上がり、時間の経過を忘れさせるほどだった。

少年のころの思い出話に花

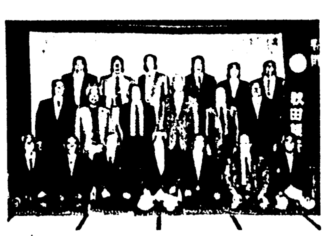
19人が出席、昭五会

昭和六十三年度の昭五会総会を九月二十六日（土）午後三時から、千秋会館（秋田市南通りみその町）で開催。出席者十九名。

定刻開会、本間代表幹事が会務、会員の消息および会計報告を、笹山監事が監査報告を行い承認。塩田会長から同窓会の現況、(1)当番の年次制、(2)会員名簿の作製状況、(3)野球部の来春の甲子園出場を期待、等の報告あり、続いて、在京昭五会の斎藤善次郎幹事から、在京会員の状況について報告があった。

本年にはいって死去した小野岡清、加藤県一、大島正夫、三君の冥福を祈って黙祷の後、懇親会にはいる。さすがに酒量はいささか減ったようだが、なかなかの健啖ぶりが見られ、少年の日の思い出に話がはずみ、時の経つのも忘れたようであった。

（文責 相澤）



恩師や先輩囲み卯中会の総会

我々秋田中学校昭和七年卒、同期生（卯中会）の秋田県総会を去る十月五日秋田駅前ターミナル・ホテルで開いた。山下四郎先生、村山多七郎さん、安倍興さん両先輩をお招きして計十八名出席。

会は渡辺孝之輔君の司会で始まり、幹事桐沢のあいさつ、恩師、先輩の夫々味のあるなつかしい秋中時代のお話し、伊藤幸枝君の乾杯の音頭、飲む程に、酔うほどにお互い時のたつのを忘れ、懐旧談が飛びかい仲々の意義ある盛会であった。

（桐沢 記）

物故者84人の追善法要

古希迎えた十一紫会

昭和十一年卒十一紫会（会長佐藤民治氏）では本年の同窓会を、七十歳の古希を迎えた一つの節目として、本年五名もの会員が相ついで物故するという報らせに、同窓である当福寺住職木村鈴信師の心くばりもあって、これまで戦没した人、病を得て物故された八十四名の追善法要を営むことになった。

十月二十三日同寺院に参集し、厳粛な法要を営むことにより、意義深い同窓会を催すことができました。

常置委員会だより

だより27号発行後に開催された常置委員会は次の通りである。

▽**企画委員会**　第三回の委員会は、十一月二十五日、新しく担当になった小玉副会長を迎えて第一会館本店に於て開催された。

年次・役員会費の納入については、かねて不公平感があるとの指摘あり、本委員会に検討を依頼されていた。太田委員長から詳細な試算を添え一案が提示されたが、納入率との兼合いもあり、更に検討を続けることにした。

創立百二十周年記念のタイムスケジュールは、分担を決めて素案を提案することにした。

先般、創立百十周年を迎えた水戸一高の同窓会（知道会）から姉妹提携の申し入れのあった件について初めて話題となり、記念式典に出席した小玉副会長よりいろいろと説明を聴き、今後前向きに検討することにした。

▽**広報委員会**　だより二十八号発行についての打合会は、担当の小林副会長出席のもとに、十一月二十九日駅前鎌田会館で開いた。在校生には新学期早々に配布することにした。

▽**名簿委員会**　既に最終の段階に入り、度々小委員会を開催し、委員長は下校正、照合の作業にも携わり、来春三月末発行を目途に頑張っている。

事務局だより

▽事務局は、来春発行予定の名簿作成のため多忙を極めているが、確認・予約カードが住所不明とのことで沢山返戻されて来ている。特に卒業年次四十年代が多く、空欄の多い名簿が出来るのではないかと今から心配している。各年次責任者には大変ご苦労をおかけしているが、なお一層のご協力をお願いしたい。

▽十一月末現在で、年次会費の納入年次は、S6～15、17～19、20⑤、23、24、25、27、29、33、34、36、46、49、50の二十五年次、役員会費の納入率は約六十九％で、何れも年度当初の予算に達していない。一月末までには完納をお願いしたい。

▼だより二十七号で報告後の会務は次の通り。

▽9・30　だより二十七号発行▽10・15　S13卒卒業五十周年記念同期会開催▽18　水戸一高同窓会（知道会）幹部と懇談会▽30　小玉副会長水戸一高創立百十周年記念式典に参列▽11・12　本荘支部総会▽16　名簿小委員会▽18　湯沢・雄勝支部総会▽19　男鹿支部総会▽22　札幌支部総会▽24　秋田市役所羽城会▽25　第三回企画委員会▽26　松鳴会総会・西仙北支部総会▽29　広報委員会▽12・3　飯田川支部総会▽8　第六回名簿委員会▽10　能代・山本支部総会▽15　常任理事会。

清酒 竿灯 醸造元
秋田醸造株式会社
取締役社長
小林忠雄（S28卒）
秋田市楢山登町5－2
TEL0188（32）2818

高喜屋
（日本そば）
瀬下鉄五郎（S28卒）
東京都町田市忠生三丁目8－2
TEL0427（91）0531

茶の湯いけばな道具専門
有限会社日の丸屋
代表取締役
渡部達郎（S28卒）
〒010 秋田市大町四丁目三－七
電話（〇一八八）六二－三四四八（代）

秋田県議会議員
自民党秋田県支部連合会
幹事長
柴田康二郎（S28卒）
平鹿郡大森町字大森一八四
電話（〇一八二）二六－二二二一

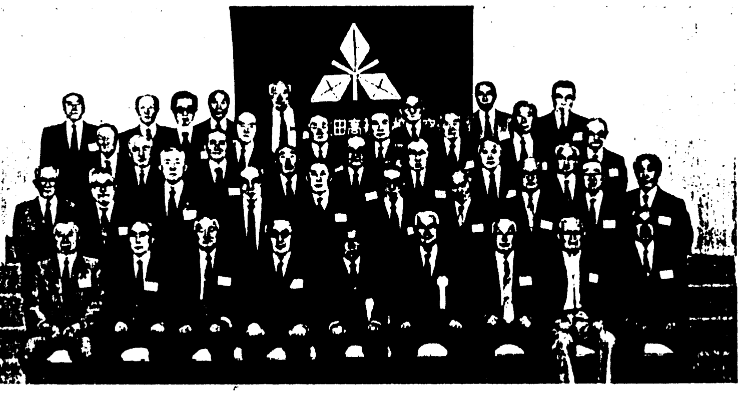
内藤徹法律事務所
弁護士
内藤徹（S28卒）
秋田市中通三－一－四四
河北ビル三階
電話（三四）三六七四（代）

医療法人敬徳会　藤原記念病院
院長
藤原慶之（S28卒）
南秋田郡天王町天王字上江川四十七
電話（〇一八八）七八－三三一一
七八－三三一五四

秋中51期会 卒業50周年祝う

母校に50万円贈る

校舎を見学、記念誌も発行



昭和十三年卒（秋中51期会）の卒業五十周年記念祝賀同期会は、十月十五日午後五時半から、秋田市ターミナルホテルで、県内外の同期生四十人が一堂に会して開かれた。

大槻幹事の司会進行で、まず石田幹事から開会のあいさつがあり、次いで石沢幹事（日吉神社宮司）の発声で、戦場に散り病魔に倒れた、八十六名の物故者に対し厳かに黙祷をささげた。

やがて記念行事実行委員を代表して菅原幹事から、卒業五十周年に当たり、計画した四つの行事―記念同期会、記念誌発行、寄附募金、母校訪問―についての経過説明があった。

ここで室田学校長に菅原代表幹事から母校に対する寄附金五十万円の目録が贈呈され、室田校長が謝辞を兼ねて母校の現況を説明され、引き続き塩田同窓会長からはお祝のことばと同窓会の活動状況が述べられた。県外から参加した同期生を代表して稲見春夫君（仙台）から「五十年の歳月を超えて集い、会えた喜びと幸せを噛みしめて大いに交歓しよう」とあいさつがあり、在京同期会の北嶋千代吉君（横浜）の音頭で乾杯し祝宴にはいった。

話題は忽ち半世紀前の秋中時代の思い出や、亡き学友のこと、戦争の話、戦後の苦労話と続き、久闊を謝し邂逅を喜び合った。座のほぐれたところで、鈴木哲郎幹事、石北茂治君（札幌）、菅原晃一君（仙台）、奥山熊雄君（仙台）、森山勇一郎君らの近況を交え、ユーモラスなテーブルスピーチで会場はぐっと賑わった。

これよりさき希望者十名ぐらいで、市内を巡り、新装間もない校舎を限なく見学。

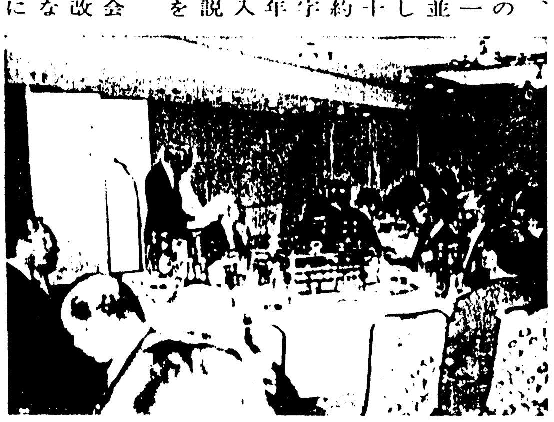
記念誌「紫紺」刊行　卒業五十周年を記念して、近況だよりを中心に、思い出の写真集、物故者を偲ぶお便り、同期生の名簿などをB5判約八十頁に編集。

母校に寄附金贈呈　同期生から一口三千円、一人一口以上の寄附を募り、目標額（五十万円）に達した。

（菅原繁雄 記）

秋田民謡をたっぷり

東京支部総会



本年度東京支部総会は、九月二十九日午後六時から、東武池袋バンケットホールで約五十人の会員が出席して開催された。

総会は、朝倉俊夫氏（S26卒）の司会で始まり、金谷勇支部長（T15卒）から会計の報告をかねて経過説明あり、在京七百五十名の会員名簿を昨年一千部作成、会員並びに本部に送付した。そのため六十二年度決算は、約三十一万円の赤字になったが、本年と来年の会費収入で埋まる予定と説明、会員の承認を得た。

ついで、塩田会長から副会長の改選、当番年次制などの活性化対策により総会なども年々盛んになりつつあること。更に今年の軟式野球部の活躍、来春の硬式野球部の選抜出場の可能性などにふれ、今後新校舎にふさわしい文武両面に於ける活躍が期待される旨の挨拶があった。

校長代理の大谷茂教頭からは、二十数年ぶりに同窓の室田弘校長を迎えて、職員生徒一同新しい意欲をもって努力している。目下新校舎にふさわしいソフト面の充実を図るため、六十五分授業、二期制を敷いて進学面の向上にも頑張っているところで、今後共母校を暖かい眼で見守って欲しいとの説明がなされた。

桜谷事務局長からは、同窓会名簿の発行、創立百二十周年に向けて今から準備を進めていくことなど、今後の協力を求めた。

その後恒例の懇親会に移り、同期生中心に各テーブルで歓談、その間、特別参加した鹿角市出身の喜都会の会主を務める市川喜都さんの一行が、今年もまた駆け付けて秋田民謡をたっぷり聴かせ、会員たちを喜ばせてくれた。最後は例によって全員で校歌を斉唱して散会した。

会長に深井氏を選出

松鳴会　組織など再検討へ

第四回新屋地区同窓会（松鳴会）は十一月二十六日、日吉会館（新屋）で、室田校長・小沢同窓会副会長をおむかえして行われた。

当日は大嶋俊平先輩（昭7卒）をはじめ五十四人もの同窓生が出席。席上、小沢副会長から、この会が発足して四年目となるがこれまでの任意の会から、正式な支部にしてはとの提案が行われ、また出席者より、未定であった会長を選任しようとの動議が出された。そして、出席者の総意により、深井博之先輩（昭8卒）を会長とし、今後組織づくりに努力していくこととなった。

余興では、今回の事務局が直接母校に行き体育館のステージ上で現役の応援団からマンツーマンで指導を受けた秋高音頭を羽織・袴姿や学生服で踊り、やんやの喝采を受けた。

次回より、踊り手の数を徐々に増やし、将来は全員で踊りながら締めの校歌へと突入していくという目論見のようである。

（49卒 高橋 記）

新支部長に河田氏

札幌総会 役員改選　肩組み和気あいあい

第八回札幌支部総会は、十一月二十二日、札幌経済センター七階の「ニュー札幌」で、本部より斎藤広孝教頭、桜谷事務局長を迎え、事務局を置いて日頃お世話になっている秋田銀行札幌支店長高橋功氏のご出席をいただいて会員約三十名が参加、盛大に開催された。

総会は宮沢俊三氏（S33卒）の司会で始まり、河田啓一郎支部長（S20卒）が挨拶に立ち、本年十月に亡くなられた副支部長栗林十四三氏のご冥福をお祈りして黙とう。まず斎藤教頭より学校の現況について説明。桜谷事務局長からは、本部副会長二名の改選、名簿の発行、創立百二十周年について、水戸一高同窓会（知道会）よりの姉妹提携申し込みなどについて詳細説明あり。終って会計報告の後、役員改選に入り、一部留任で別記のように決まった。

ついで、今野陽三氏（S20卒）の乾杯で懇親会に入り、各人より自己紹介、思い出話などがとび出し、和気あいあいのうちに肩を組み校歌を斉唱、佐々木郁夫氏（S20卒）の締めで解散、例によって「きりたんぽ田村」に流れ、別れを惜しんだ。

新役員は次の如し。

▽支部長　河田啓一郎（20卒）
▽副支部長　今野陽三（〃）
▽〃　佐々木郁夫（〃）
▽〃　相馬守胤（〃）
▽幹事　高橋武彦（26卒）
▽〃　三浦守（33卒）
▽〃　菅埜誠（48卒）

つどい

阿部新氏に慰労の言葉

秋中五十期秋の例会

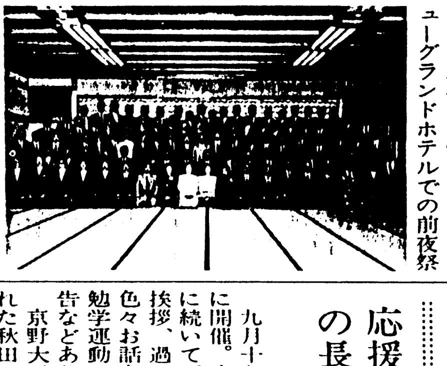
秋中五十期会秋の例会は、去る十一月二十八日、五時三十分よりアキタニューグランドホテルに於て、会員二十六名が出席して開催された。

深澤石謙氏が代表して、まず花輪時代を通じて七期二十八年の長きにわたって鹿角市長を務めた阿部新氏に慰労の言葉を述べ、これに対し阿部氏からは、この辺で区切りをつけたかったのが本心だった。思えば三十歳代からよく勤まったものと述懐された。つぎに初めてこの会に顔を見せた布川博君（卒業年次は十三年になっている）を紹介、囲りから思い出すような雑談が聞かれた。最後に桜谷同窓会事務局長から、東京支部総会に出席したついでに、在京秋中五十期会（十一月一日開催）に出席した模様について報告あり、懇親会に移り、会の盛り上がりにつれて各人テーブルからテーブルと歓談、最後に校歌を斉唱して解散した。

卒業30年祝い 110余人が参加

三三会、記念誌も発刊

秋高三三会（昭和三十三年卒）は、秋高を卒業して三十周年となり、記念の式典・祝賀会を開催した。九月二十五日の式典・祝賀会には室田校長、恩師、来賓十六名を含めて百十余名の参加となり盛会だった。



また、前日二十四日にはしばらくぶりの来秋の方を対象として、貸し切りバスにて母校訪問を行い校長先生、教頭先生のご案内を戴きすばらしい校舎を拝見させて戴いた。その後高清水の酒工場を見学し、アキタニューグランドホテルでの前夜祭へと合流した。前夜祭も五十名近くの参加者があり三十年振りの話に花が咲いた。

卒業三十周年を記念して発刊した記念誌も、昨年の十二月より準備を進めて式典前日にはようやく出来上がった。いろいろな分野で活躍している同期の方々の生活ぶりが感じられておもしろいものが出来たと喜んでいる。

（代表幹事 渡辺吉雄）

会長に高橋氏を選出　再会、話はずむ

秋田営林局支部の総会

毎年恒例の九月開催総会を今年も九月十七日弥高会館で開催された。諸事報告、次年度予算も決定され、協議事項の中で、会員の参加がふるわないので、もう一つ工夫が必要でないかとの意見があり、事務局では今後アンケート収集等をし、課題として取り組んでいくことにした。

総会後懇親会となり、高橋会長の挨拶に続いて来賓として出席された母校同窓会の小澤副会長から会の近況報告、桜谷事務局長から学校の近況報告があった。又営林局側の海外生活が長かった増子事業部長からは外国の林業事情等のお話しがあった。久しぶりの再会に話しも弾み、気分も盛り上がり懇親は続いた。

■新役員　▽会長＝高橋正行（30年卒）▽副会長＝見上昭太郎（28年卒）、小玉實（30年卒）▽事務局長＝木曽晃哉（32年卒）

センバツに期待

本荘由利支部で総会

去る十一月十二日、本荘由利支部総会が同窓生三十七名が出席して、本荘市ホテル・アイリスで開催された。

学校から斎藤教頭、同窓会の小林副会長と事務局の桜谷先生が出席され、学校や同窓会の状況を（それぞれの先生から）報告された。

次いで懇親に入り、酔いのまわるにつれて、昔の話や春の甲子園大会に熱い期待を寄せ乍ら、時のたつのも忘れ、最後に校歌・応援歌を斉唱して散会した。

応援団で活躍の長野君入会

東仙北支部総会

九月十九日夕六郷町割烹花角に開催。小西松治郎支部長挨拶に続いて、塩田同窓会長から御挨拶、過日の同窓会総会の事等色々お話あり、又室田学校長は勉学運動に励む学校の近況御報告などあり、懇親会に入る。

京野大三君より、長らくおられた秋田の会社関係も辞して、この三月故郷の六郷町へ帰り七月に町長に就任された事等、改めて挨拶される。また、新入会の長野佳司君（山田フーズ勤務）は学校当時応援団で活躍された由で、地区的に新会員の増えない、沈退気味の当支部に正に活気を与える事と、校歌、応援歌の高唱にも熱気が溢れた。

（文責 小西幹事）

今後の支部活動発展確認し合う

63年度 湯沢雄勝支部総会

十一月十八日午後六時から湯沢ロイヤルホテルで開催した。

当日は、同窓会より小玉副会長、学校より斉藤教頭先生のご出席を賜り、それぞれの近況、動勢についてのお話を頂戴した。

会員23名の出席の中、三好功一大先輩（大13年卒）の発声で乾杯し、懇親会に入った。

ほどよくアルコールが廻った後、初参加の会員もいたので、全員に自己紹介をお願いし、高校時代の思い出、近況についてのお話を伺った。支部活動の活性化を望む声も多く聞かれ、また小玉副会長さんからも大いに激励され、今後の発展を確認しあった。

（事務局 小川弘二）

野球 東北大会で準優勝

試合後ベンチ前に整列するナイン（福島市あづま球場）

秋季東北地区野球大会が十月八日から十一日まで、福島市のあづま球場と郡山市の開成山球場を会場に開催された。秋季中央地区大会と秋季全県大会で優勝した本校野球部は三年ぶりの選抜甲子園大会を目ざして、一回戦岩手県代表の一関商工と対戦、エース椎名の力投と打線の爆発で12対0七回コールドで圧勝した。

続く二回戦は山形県代表の鶴商学園と対戦、初回先取点を許したものの打線がまたも爆発、前日の14安打に続いてこの日も13安打、7対2で快勝した。

準決勝は地区大会、県大会の五試合で連続二桁得点をしている、打線好調の宮城県代表の柴田と対戦、椎名、横山の好投で三回まで両チーム無得点の緊迫したゲーム展開が続いた。四回裏、三番椎名がライト前にヒット、続く四番阿部もレフト前にヒット、無死一、二塁で五番小塚がバックスクリーン左横の最も深いところに大本塁打を打ち、貴重な三点を先取した。

センバツ出場、有力に

あづま球場は両翼100㍍、中堅122㍍。しかも外野フェンスが両翼で5㍍、中堅で4㍍の高さがあり大リーグサイズの広い球場である。その距離およそ130㍍のド肝を抜く大アーチに球場全体が一瞬静まり返ったほどであった。球場関係者は「あんな遠くに飛んだ打球は高校生では初めて」と証言する。

その直後、六番渡辺がレフトポール際に115㍍のアーチ、この連続大ホームラン、椎名の4安打完封もあって、5対0の価値ある勝利をおさめた。

決勝は打線好調同士による熱戦が期待されたが、四日間連投のエース椎名が体力の限界を超えていたことと、バックの守りのミスが重なり16対0の思わぬ大敗を喫してしまった。「椎名君は経験も豊か、球の種類も多い。四日間一人で投げて疲れ切っていた。そうでなければあんな大差になることはないはず」という仙台育英の竹田監督の言葉や「たとえ決勝で大敗したといえ、東北でも屈指の進学校である秋田高校の活躍は特筆に値するものがある」という菅原徳行東北高野連会長の閉会式でのあいさつは、敗戦のショックで茫然としている本校選手にとって実に心温まる励ましの言葉であった。

いずれにしても三年ぶりの選抜甲子園出場が有力となり、二月一日の選考委員会の結果が待たれる。

（須藤正直　記）

最後の共通一次試験に 本校から379人挑戦

私立延430校

受験生、追い込みに懸命

箱根の山を境に、有力大学を東西に二分することから始まった入試改革も、やれA・B分割だ、やれ分離・分割だとネコの目のようにクルクル変わり、受験生不在の「大学のエゴ」が優先しているのではないかという批判を浴びている。それかあらぬか当初は「初の40万人台か」と予想された共通一次の志願者が、結局は39万5千人にとどまり、現役の志願率も一四・三%と、共通一次が始まって以来の最低を記録した模様である。その共通一次試験は来年度から一部の私立大を巻き込んで、「大学入試センター試験」と衣替えをするため、最後の共通一次になるわけだが、

本校からは昨年度より約二〇名少ない三七九名が挑戦する。先日受験票も届き、受験生も最後の追い込みに懸命である。ただ、今一つ気勢があがらないのは、各種の模擬試験の結果が余りパッとしないせいかもしれない。もちろん上位陣は健在で、現に全員が参加した11月の共通一次直前模試では全国順位で11万人中56位に食い込んだ生徒もおり、東大・京大・一橋大・東工大などの超難関校に果敢に挑む。問題はそれに続く層で、63年度入試で苦杯をなめた東北大は今年も楽観できない状勢である。もっとも、「本番に強い」と定評のある本校生のことである。ラストスパートに全力を傾け、必ずやゴールに飛び込んでくれるものと確信している。共通一次が終わってから自己採点を行い、その結果を見てから個々の大学に出願できるので、こと数字にはかなりの変動が予想されるが、共通一次出願時における志望動向調査では、やはり秋田大が最も多く一三五名（教育七九、医二二、鉱山三四）で、次いで東北大六二名、さらに金沢大五七名、弘前大三八名、北海道大三三名、山形大三〇名、東京学芸大三〇名、新潟大二四名と続く。いわゆる超難関大学では、東京大六名、京都大一一名、一橋大九名、東京工業大五名などで、複数受験制度になってからぐんと実績を伸ばしてきた東京大の現役合格者が、どうなるか注目されるところである。

一方、私立大学では早稲田大に四二名、慶応義塾大に一五名挑戦するのを始めとして、私立大専願の八二名を中心に、延四三〇大学に出願する。国公立離れが起きているということは、取りも直さず、私立大の難化ということを意味するので、休調には十分留意して、万全の体勢でがんばってほしいと思う。

ある本に、「一点をもぎとる答案テクニック」という記事が載っていた。ビスマルクをヴィスマルクと書いたら確実に点数がなくなる。基礎はがっちり固めたいものである。

（進路指導部　畠山和也）

全県新人戦

三種目で団体優勝

柔道の竹内ら個人も多数

中央地区新人戦では、硬式野球、バスケットボール、柔道、剣道、バドミントン、弓道が団体優勝、バレーボール、卓球が団体準優勝、さらに個人では、ボートナックルフォアをはじめ柔道、卓球、バドミントンで優勝者を出すなど、例年になく好成績をあげた運動部は、全県大会でも活躍がめざましかった。以下全県新人戦の活躍ぶりを紹介するが、団体の優勝は、硬式野球（全県選抜）、柔道、バドミントンで、それぞれ東北大会出場権を獲得、剣道も四位ながら出場権を獲得した。

【柔道】

団体（勝ち抜き戦）　優勝

2回戦　○4人残し　横手

準々決勝　○4人残し　男鹿

準決勝　○5人残し　横手工

決勝　○2人残し　経法附

宇佐美　引き分け　加賀谷

近藤○体落し　井原

近藤　引き分け　秋元

竹内○払い腰　渋谷

竹内　引き分け　山中

（久米・鎌田　2人残し）

個人（女子）

48kg以下級　優勝　阿原美生

個人（男子）

軽中量級　優勝　久米達也

　準優勝　鎌田玄徳

中量級　優勝　宇佐美晋哉

軽重量級　優勝　竹内栄

無差別級　優勝　竹内栄

　準優勝　宇佐美晋哉

全国高校柔道選手権秋田県予選兼全県新人大会において念願の優勝を果たすことができた。

新メンバーになって加藤杯争奪大会・全県高校大会・中央地区大会で連勝、自信をつけてこの大会に臨んだ。

準々決勝までは順調に大差で勝ち進み、準決勝では宇佐美（2年）が大型チームの横手工高相手に一人で五人抜きという快挙を成し遂げ決勝へ。

決勝の相手は宿敵経法大附高、先鋒宇佐美引き分けの後、次鋒小兵近藤は体重差30kgの相手を果敢に攻め見事な体落しで一本勝ち。次の相手とは確実に引き分け、ポイントゲッター竹内につないだ。竹内は逃げる相手を冷静に追い込み、豪快な払い腰で一本勝ち。次の相手は大将で一年生ながらポイントゲッター山中、竹内押しぎみに試合を進めたがタイムアップ。二人を残して決勝をものにした。

今年のチームは90kgの竹内、86kgの宇佐美以外はレギュラーの体重は60kg代と軽量。全国大会でも最軽量チームであろう。

しかし、このチビッコ三羽烏は相当しぶとく柔道がうまい。

また、個人戦においても6階級中4階級に優勝し、他校を圧倒した。軽重量級の竹内栄は、無差別級も勝ち取り一人で二冠に輝いた。本人は個人の全国大会出場権も合わせて勝ち取った。

女子においては一年生ながら48kg以下級において阿原美生が優勝、これまた東北大会・全国大会に駒を進めた。

東北大会は一月二十九日仙台市で開催されるが、ここでは団体・個人ともに優勝を目指し全国大会（三月十九日〜二十一日・日本武道館）に弾みをつけ、秋高旋風を巻きおこす様頑張りたい。

（船木賢咲　記）

【バドミントン】

男子団体　優勝

1回戦　○　3：0　秋田中央

2回戦　○　3：0　山利工

準決勝　○　3：2　大曲工

決勝　○　3：2　横手工

男子個人

シングルス準優勝　松橋弘光

ダブルス　三位　松橋・中嶋組

一年生シングルス　優勝　佐藤慶三

一年ダブルス　三位　藤本・葛西組

団体は松橋、中嶋組の二人の活躍が優勝への大きな原動力となった。来年六月の全県総体で、31年ぶりの団体優勝を成し遂げることが抱負である。また一年生のシングルスでは、二連覇を成し遂げ、一年生の全県チャンピオンとなった。（船木正博　記）

以上のほか、個人の四位以上の成績は次のとおりである。

【ボート】ナックルフォア　優勝（大竹、小松、沼田、伊藤、桜庭）

セルフォア　三位

シングルスカル　四位

【水泳】

200M個人メドレー　優勝

400M個人メドレー　優勝

宮越　大

【陸上競技】

400M　優勝

400Mハードル　優勝

伊藤　幸治

400Mリレー、1600Mリレー、1500M　三位

800M　四位

【弓道】男子個人　準優勝

全国大会で奨励賞受賞

放送委員会

11月20日東京都日本消防会館で開かれた「第26回全国高等学校放送コンクール」に出場した本校放送委員会は、次の部門で賞を獲得しそれぞれ表彰された。

ラジオ制作CM部門

「秋田の……」　奨励賞

ラジオ制作

ドラマ・ドキュメント部門

「飽食の時代」　地区奨励賞

このたびの出場は7月に行われた「全国高等学校放送コンテスト」に次いで今年度二度目のものであるが、入賞したということは全国的にも高いレベルにあるといっても過言でなく、また日頃の放送委員会の活動を認められたこととして本当に喜ばしいことである。

（佐藤晋　記）

哀悼

（判明分・敬称略）

関谷　孝徳	（S8）	秋田市	9・19
東海林武雄	（T5）	鎌倉市	9・20
西村　正	（S11）	男鹿市	9・22
岸田啓之助	（S2）	秋田市	9・29
高山　重雄	（旧職）	本荘市	10・2
菅　鉄郎	（S11）	秋田市	10・2
佐藤　正一	（S10）	飯田川	10・4
小笹　貞助	（S7）	秋田市	10・3
佐々木金光	（S31）	秋田市	10・4
畠山　弘	（S29）	秋田市	10・6
長崎和夫	（S28定）	秋田市	10・10
栗林十四三	（S17）	札幌市	10・5
大友　重二	（S7）	大曲市	11・11
及川　満夫	（S13）	東京都	10・31
冨田　恒	（S61）	男鹿市	11・27
星野　重明	（S17）	栃木県	9・21
鈴木　稔	（S7）	秋田市	11・27
浦川　康男	（S9）	横須賀	10・27
鈴木　正弘	（S2）	西木村	11・19
鈴木　三郎	（S11）	東京都	10・
水沢久三郎	（T13）	東京都	11・18

秋高二八会仙台支部
相沢雄一郎
押切永成
根田千秋
櫻庭哲郎
松沢昌男
渡部京一
菅原義晄

小林法律事務所
弁護士　小林　昶（S38卒）
秋田市山王三丁目八番三四号　山王ツインビル2F
電話〇一八八（六二）五〇〇〇

廣嶋法律事務所
弁護士　廣嶋清則（S38卒）
秋田市山王七丁目七番一号
電話〇一八八（六三）七一一五

村岡法律事務所
弁護士　村岡　昭（S38卒）
秋田市山王六丁目二番十号　大丸ビル二〇五
電話〇一八八（六二）四四三一

伊藤治兵衛法律事務所
弁護士　伊藤治兵衛（S38卒）
大館市字部垂町[illegible]

市立秋田総合病院
第二外科
科長　医学博士　添野武彦（S38卒）
勤務先　〒010　秋田市川元松丘町4-30
TEL0188（23）4171

秋高三八会
代表幹事
大野進通
丸野内胡桃

(有)山方建築設計事務所
建築設計・監理・建物調査
一級建築士　山方周道（S38卒）
〒010　秋田市山王二丁目9番11号
TEL（0188）23-9148

キャロットいまい
いまい仕出店
株式会社　今井商店
取締役社長　今井　弘（S38卒）
秋田市大町五丁目4番36号
TEL0188(62)2091・(23)1322

長谷川医院
院長　長谷川幸弘（S41卒）
〒〇一〇-〇五　男鹿市船川港船川　字新浜町一-一

敬徳会歯科診療所
所長　千葉豊明（S47卒）
〒〇一〇-〇一　秋田県南秋田郡天王町[illegible]